

特定鳥獣による被害対策

① クマ類の出没防止・出没対応に向けて

講師：一般財団法人自然環境研究センター 小林喬子

クマ類の出没対応マニュアル改訂版をもとに、出没防止と対応に関して最近の取組状況も併せて解説します。まず、出没を防ぐためには人の生活するエリアとクマの生活するエリアを分ける、「すみ分け」が重要です。そのため、地域内の誘引物の対策と出没ルートの対策が必要です。また、地域住民へのクマ類の生態と被害対策の知識普及が求められます。次に、出没時には関係者間の連絡体制構築が必要で、役割分担表や連絡体制図、対応フロー図の作成が効果的です。出没対応には、情報収集、注意喚起、情報共有、現場対応が含まれ、監視、追い払い、捕獲などの方法があります。人身被害発生時には迅速な救助と情報収集、関係者間の情報共有が重要で、事故原因の究明と再発防止策の検討が必要です。訓練や研修を通じて対応者の技術向上を図り、実際の対応に備えることが重要です。

② ニホンジカによる植生被害対策

講師：一般財団法人自然環境研究センター 荒木良太

ニホンジカによる人との軋轢は、農林業被害だけでなく、生態系への影響、生活環境被害へと及んでいます。ニホンジカは嗜好性の高い植物から順にあらゆる植物を採食し、生息密度が高まった場合でも植物がなくなるまで食べ続ける傾向があります。近年、農林業被害は減少していますが、アクセスが困難な奥山地域での植生被害が深刻化しており、早急な対策が必要です。具体的な対策としては、防護柵の設置や捕獲による採食圧の軽減がありますが、広域的な対策として捕獲が適している場合もあります。植生被害はニホンジカ特有の課題であり、積極的な取り組みが求められています。対策の効果は遅く、問題の長期放置は解決を困難にするため、一定の効果が得られる地域が増えてきた農林業被害対策とは異なるアプローチが必要となります。